筑摩書房「古典探究（古文編）」（古探 ７15）年間指導計画（シラバス）案

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科　目 | 単位数 | 指導学年 | 使用教科書・副教材等 |
| 古典探究 | ４単位 | ○○科○学年○学級 | 筑摩書房『古探715　古典探究（古文編）』  準拠ノート『古典探究　課題ノート』  （「課題ノート」の扱いについては省略） |

１　学習の到達目標等

|  |  |
| --- | --- |
| 学習の到達目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。  (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。  (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 |

２　評価の観点

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評価の観点 | | |
| a ．知識・技能 | ｂ．思考力・判断力・表現力 | ｃ．主体的に学習に取り組む態度 |
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。 | 「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 | 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとしている。 |

３　学習計画及び評価方法等（古探715）

| 月 | 単元名 | 単元の目標 | 学習内容（教材） | 配当時間 | 学習活動 | 評価基準・評価方法 | 評価の方法 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| a 　（知識・技能）  ｂ　（思考力・判断力・表現力）　A読むこと  ｃ　（主体的に学習に取り組む態度） |
| 第一部 | | | | | | | |
| 4 | 第１章　生き生きと描かれた人々――説話 | 話の展開を捉え、登場人物の心情を理解する | 宇治拾遺物語  ●袴垂、保昌にあふこと（巻第二）  ●猟師、仏を射ること（巻第八） | 2 | ①「宇治拾遺物語」に描かれた登場人物それぞれのことばを具体的におさえながら、心情の変化や批判的思考を読み取る。  ②基本的な古典文法や古語について確認する。  ③説話の特徴や、この話が語り伝えられた意義について理解する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア「宇治拾遺物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ「宇治拾遺物語」の説話という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ「宇治拾遺物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「宇治拾遺物語」を読むことを通して、我が国の文化の特質や、仏教説話から我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができている。  イ　「宇治拾遺物語」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「宇治拾遺物語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「宇治拾遺物語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　説話という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　説話という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「宇治拾遺物語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「宇治拾遺物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 4 | 第１章　生き生きと描かれた人々――説話 | 話の展開を捉え、登場人物の心情を理解する | 古今著聞集  ●刑部卿敦兼の北の方（巻第八） | １ | ①「刑部卿敦兼の北の方」において登場人物の心情を変化させたものを理解し、ことばの力を味わう。  ②基本的な古典文法や古語について確認する。  ③説話の特徴や、この話が語り伝えられた意義について理解する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「古今著聞集」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「古今著聞集」の 説話という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「古今著聞集」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「古今著聞集」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「古今著聞集」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「古今著聞集」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「古今著聞集」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　説話という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　説話という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「古今著聞集」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。  エ　「古今著聞集」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　歌に思いを託す――物語（一） | 歌物語の表現の特徴を理解し、物語を解釈する | 伊勢物語  ●初冠（第一段）  ●月やあらぬ（第四段）  ●行く蛍（第四五段）  ●狩りの使ひ（第六九段）  ●渚の院（第八二段）  ●小野の雪（第八三段）  ●とみの文（第八四段）  ●つひにゆく（第一二五段） | 4 | ①「伊勢物語」を通して語句の意味や用法を確認する。  ②「伊勢物語」を通して文の構成や係り受けに注意する。  ③「伊勢物語」を通して歌物語の構造と表現を理解する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「伊勢物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「伊勢物語」の歌物語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「伊勢物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「伊勢物語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「伊勢物語」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「伊勢物語」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「伊勢物語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「伊勢物語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歌物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歌物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「伊勢物語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。  エ　「伊勢物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　歌に思いを託す――物語（一） | 歌物語の表現の特徴を理解し、物語を解釈する | 大和物語  ●姨捨（第一五六段）  ●鹿の声（第一五八段） | 2 | ①「大和物語」を通して語句の意味や用法を確認する。  ②「大和物語」を通して、歌がよみだされるまでの物語の構成や展開に注意しながら、話の面白さを味わう。  ③「なり」の識別を理解する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「大和物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「大和物語」の歌物語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「大和物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「大和物語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「大和物語」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「大和物語」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「大和物語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「大和物語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歌物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歌物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「大和物語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。  エ　「大和物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 6 | 第３章　豊かな感受性、深まる思考――随筆（一） | 作者の考え方や自然観に触れる | 枕草子（一）  ●春は、あけぼの（第一段）  ●野分のまたの日こそ（第一八九段）  ●文ことばなめき人こそ（第二四四段）  ●世の中になほいと心憂きものは（第二四九段）  ●すさまじきもの（第二三段）  ●中納言参りたまひて（第九八段）  ●二月つごもりごろに（第一〇二段） | 4 | ①「枕草子」において具体例をあげながら読者をひきつけていく独特の文体を味わう。  ②古語の形容詞の意味と効果を正確に捉える。  ③係り結びを理解する。  ④助動詞を理解する。  ⑤「え～打消し」の用法を理解する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「枕草子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「枕草子」の随想という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「枕草子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「枕草子」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「枕草子」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「枕草子」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「枕草子」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「枕草子」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　随想という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　随想という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「枕草子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。  エ　「枕草子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第４章　人と人とが織りなす世界――物語（二） | 多様な人間関係と物語の展開を読み取る | 堤中納言物語  ●虫めづる姫君 | 1 | ①「姫君」のものの考え方を、ことばや行動に即して理解する。  ②対話による場面構成の特色を捉える。  ③「虫めづる姫君」を通して語句の意味や用法を確認する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「堤中納言物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「堤中納言物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「堤中納言物語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「堤中納言物語」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「堤中納言物語」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「堤中納言物語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「堤中納言物語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「堤中納言物語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。  エ　「堤中納言物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第４章　人と人とが織りなす世界――物語（二） | 多様な人間関係と物語の展開を読み取る | 落窪物語  ●落窪の君（巻の一） | 1 | ①「落窪物語」における登場人物の置かれた状況に留意する。  ②作品冒頭の構成や語り方を理解する。  ③「落窪物語」を通して語句の意味や用法を確認する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「落窪物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「落窪物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「落窪物語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「落窪物語」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「落窪物語」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「落窪物語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「落窪物語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「落窪物語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。  エ　「落窪物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第４章　人と人とが織りなす世界――物語（二） | 多様な人間関係と物語の展開を読み取る | 源氏物語（一）  ●光源氏の誕生（桐壺巻）  ●飽かぬ別れ（桐壺巻）  ●廃院の怪（夕顔巻）  ●若紫の君（若紫巻） | 4 | ①「源氏物語」における登場人物の行動や心理を場面や状況に応じて的確に捉える。  ②長編物語がどう始まり、展開するかを理解する。  ③「源氏物語」を通して語句の意味や用法を確認する。  ④助動詞の用法を理解する。  ⑤敬語の用法と対象を理解する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「源氏物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「源氏物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「源氏物語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「源氏物語」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「源氏物語」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「源氏物語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「源氏物語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　長編物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　長編物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「源氏物語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。  エ　「源氏物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第５章　体験を語る――日記 | 作品に表現された心情を読み取る | 更級日記  ●継母との別れ  ●源氏の五十余巻 | 2 | ①作者は過去を回想してこの作品を記しているが、回想しているときの作者の心情を読み取る。  ②「更級日記」を通して、語句の意味や用法を確認する。  ③「なむ」の識別を理解する。  ④助詞の用法を理解する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「更級日記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「更級日記」の日記文学という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「更級日記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「更級日記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「更級日記」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「更級日記」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「更級日記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「更級日記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　日記文学という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　日記文学という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「更級日記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「更級日記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「更級日記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「更級日記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「更級日記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「更級日記」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  C  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第５章　体験を語る――日記 | 作品に表現された心情を読み取る | 蜻蛉日記  ●嘆きつつ（上巻）  ●道綱鷹を放つ（中巻） | 2 | ①作者と登場する人物との関係に留意して、作品に表現された作者の心情を読み取る。  ②「蜻蛉日記」を通して、語句の意味や用法を確認する。  ③助動詞の活用に注意する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「蜻蛉日記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「蜻蛉日記」の日記文学とうい文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「蜻蛉日記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「蜻蛉日記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「蜻蛉日記」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「蜻蛉日記」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「蜻蛉日記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「蜻蛉日記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　日記文学という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　日記文学という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「蜻蛉日記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。  エ　「蜻蛉日記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第６章　人と社会を見つめる――随筆（二） | 時代背景とともに作者の論理・思考を読み取る | 徒然草  ●大事を思ひ立たむ人は（第五九段）  ●世に語り伝ふること（第七三段）  ●筑紫に、なにがしの押領使など（第六八段）  ●これも仁和寺の法師（第五三段）  ●九月二十日のころ（第三二段）  ●久しく隔たりて会ひたる人の（第五六段） | 3 | ①作者のものの見方・考え方を章段ごとに理解しながら、作品に展開する話題と文章の多様性を楽しむ。  ②「徒然草」を通して、語句の意味と用法を核にする。  ③助動詞の用法について理解する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「徒然草」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「徒然草」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「徒然草」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「徒然草」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「徒然草」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「徒然草」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「徒然草」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　随想という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　随想という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「徒然草」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「徒然草」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第６章　人と社会を見つめる――随筆（二） | 時代背景とともに作者の論理・思考を読み取る | 方丈記  ●安元の大火  ●養和の飢饉 | 2 | ①文章のリズム、ことばが作り出す臨場感をもとに、災害がどのように記録され記憶されるのかを考える。  ②「方丈記」を通して、語句の意味と用法を確認する。  ③「さへ」「だに」の用法を理解する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「方丈記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「方丈記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「方丈記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「方丈記」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「方丈記」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「方丈記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「方丈記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　随想という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　随想という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「方丈記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「方丈記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第７章　歴史を語る――物語（三） | 歴史的な事実と比較しながら、物語を解釈する | 大鏡（一）  ●雲林院にて（序）  ●花山院の出家（花山院）  ●公任、三船の誉れ（頼忠）  ●南の院の競射（道長上） | 3 | ①文章の構成や展開に注目する。  ②登場人物の思惑を読み取りながらエピソードの面白さを味わう。  ②「大鏡」を通して、語句の意味と用法を確認する。  ③敬語の用法を理解する。  ④「まし」「だに」「かは」「な～」の用法を理解する。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「大鏡」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「大鏡」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「大鏡」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「大鏡」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「大鏡」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「大鏡」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「大鏡」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歴史物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歴史物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「大鏡」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「大鏡」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「大鏡」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「大鏡」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「大鏡」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「大鏡」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第７章　歴史を語る――物語（三） | 歴史的な事実と比較しながら、物語を解釈する | 平家物語  ●忠度の都落ち（巻第七）  ●能登殿の最期（巻第一一） | 2 | ①ことばの響きやリズムを味わう。  ②時代の転換期を生きた人々の思いや考え方を読み取る。  ③「平家物語」を通して、語句の意味や用法を確認する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「平家物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「平家物語」の軍記物語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「平家物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「平家物語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「平家物語」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「平家物語」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「平家物語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「平家物語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　軍記物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　軍記物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「平家物語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「平家物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「平家物語」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「平家物語」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「平家物語」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「平家物語」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第７章　歴史を語る――物語（三） | 歴史的な事実と比較しながら、物語を解釈する | 太平記  ●千早城の戦い（巻第七） | 1 | ①『平家物語』とは異なる合戦の描き方を理解する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「太平記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「太平記」の軍記物語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「太平記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「太平記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「太平記」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「太平記」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「太平記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「太平記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　軍記物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　軍記物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「太平記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「太平記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「太平記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「太平記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「太平記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「太平記」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第８章　身体とことば――芸能 | 現代に生きる古典芸能の姿と普遍性を理解する | 風姿花伝  ●二十四、五 | 0.5 | ①用いられる比喩を的確に解釈する。  ②人生を捉える普遍性を、芸能論から導いた作者の深い思索を理解する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「風姿花伝」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「風姿花伝」の能楽論という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「風姿花伝」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「風姿花伝」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「風姿花伝」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「風姿花伝」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「風姿花伝」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「風姿花伝」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　能楽論という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　能楽論という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「風姿花伝」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「風姿花伝」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「風姿花伝」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「風姿花伝」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「風姿花伝」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「風姿花伝」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第８章　身体とことば――芸能 | 現代に生きる古典芸能の姿と普遍性を理解する | 難波土産  ●虚実皮膜の間 | 0.5 | ①虚と実の関係を読み取り、虚構だからこそ共感・共有されて真実となる文学の普遍的なあり方を考える。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「難波土産」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「難波土産」の浄瑠璃評釈書という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「難波土産」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「難波土産」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「難波土産」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「難波土産」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「難波土産」の読解を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「難波土産」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　浄瑠璃評釈書という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　浄瑠璃評釈書という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「難波土産」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「難波土産」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「難波土産」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「難波土産」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「難波土産」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「難波土産」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第８章　身体とことば――芸能 | 現代に生きる古典芸能の姿と普遍性を理解する | 謡曲  ●忠度 | 0.5 | ①一人の武将の死後に残る思いを理解し、古典となった文学が発展的に解釈・再構成されるさまを味わう。  ②シテ・ワキ・地謡に分かれて音読する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「謡曲　忠度」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「謡曲　忠度」の謡曲という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「謡曲　忠度」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「謡曲　忠度」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「謡曲　忠度」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「謡曲　忠度」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「謡曲　忠度」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「謡曲　忠度」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　謡曲という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　謡曲という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「謡曲　忠度」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「謡曲　忠度」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「謡曲　忠度」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「謡曲　忠度」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「謡曲　忠度」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「謡曲　忠度」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第８章　身体とことば――芸能 | 現代に生きる古典芸能の姿と普遍性を理解する | 実践　芸能の中に生きる古典文学を味わおう | 1 | ①『平家物語』で描かれた忠度の歌の「千載集」入集の顛末をまとめる。またその顛末が能「忠度」ではどのように捉えられているか、考える。  ②忠度の和歌は、能「忠度」ではどのように生かされているか、調べる。  ②能「忠度」では、忠度と桜はどのように結び合い、イメージを広げているか、話し合う。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることで、用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「謡曲」と「平家物語」を読み比べることで、文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることで、おける文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「謡曲」と「平家物語」を読み比べることで、それぞれに表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることを通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることを通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることを通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることで、それぞれの文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることで、それぞれの文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることを通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「謡曲」と「平家物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることで、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることで、それぞれに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることで、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「謡曲」と「平家物語」を読み比べることでを多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表 |
| 2 | 第９章　定型の力――和歌・歌謡・俳諧 | 韻文の表現の特色と歴史について理解を深める | 万葉の歌 | 1.5 | ①繰り返し音読してリズムを味わい、表現の技法や特色に留意して、歌の情景や心情を思い描く。 | A  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「万葉の歌」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「万葉の歌」の和歌という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「万葉の歌」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「万葉の歌」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「万葉の歌」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「万葉の歌」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「万葉の歌」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「万葉の歌」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　和歌という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　和歌という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「万葉の歌」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「万葉の歌」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「万葉の歌」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「万葉の歌」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「万葉の歌」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「万葉の歌」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 2 | 第９章　定型の力――和歌・歌謡・俳諧 | 韻文の表現の特色と歴史について理解を深める | 王朝の歌 | 1.5 | ①表現の技法や特色に留意して、万葉や中世の歌と比較する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「王朝の歌」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「王朝の歌」の和歌という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「王朝の歌」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「王朝の歌」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「王朝の歌」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「王朝の歌」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「王朝の歌」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「王朝の歌」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　和歌という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　和歌という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「王朝の歌」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「王朝の歌」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「王朝の歌」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「王朝の歌」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「王朝の歌」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「王朝の歌」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 2 | 第９章　定型の力――和歌・歌謡・俳諧 | 韻文の表現の特色と歴史について理解を深める | 中世の歌 | 1 | ①表現の技法や特色に留意して、万葉や王朝の歌と比較する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「中世の歌」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「中世の歌」の和歌という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「中世の歌」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「中世の歌」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「中世の歌」を通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「中世の歌」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「中世の歌」の読解を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「中世の歌」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　和歌という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　和歌という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「中世の歌」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「中世の歌」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「中世の歌」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。  カ　「中世の歌」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「中世の歌」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「中世の歌」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表 |
| 2 | 第９章　定型の力――和歌・歌謡・俳諧 | 韻文の表現の特色と歴史について理解を深める | 近世の句 | 1 | ①季語について、近世以前の古典作品におけるイメージを確認しながら、句の情景を具体的に想像する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「近世の句」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 俳諧の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「近世の句」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「近世の句」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「近世の句」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「近世の句」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「近世の句」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「近世の句」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　俳諧という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　俳諧という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「近世の句」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「近世の句」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「近世の句」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「近世の句」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「近世の句」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「近世の句」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 2 | 第９章　定型の力――和歌・歌謡・俳諧 | 韻文の表現の特色と歴史について理解を深める | おらが春  ●愛児さと | 1 | ①比喩や例を用いた比較の表現に注目し、それらがどのような効果や印象を与えているか考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「おらが春」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「おらが春」の俳文という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「おらが春」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「おらが春」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「おらが春」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「おらが春」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「おらが春」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「おらが春」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　俳文という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　俳文という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「おらが春」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「おらが春」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「おらが春」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「おらが春」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「おらが春」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「おらが春」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 第二部 | | | | | | | |
| 4 | 第１章　市井の人々――説話 | 不可思議に向き合う人々の思考を理解する | 今昔物語集  ●鷲にさらわれた赤子（巻第二六）  ●賀茂の祭りを見物する翁（巻第三一） | 2 | ①説話において、事態がどのように捉えられ、まとめらえているか、そのことばに注意して、人々が世界を理解するための論理を読み取る。  ②敬語の用法と対象を理解する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「今昔物語集」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「今昔物語集」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「今昔物語集」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「今昔物語集」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「今昔物語集」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「今昔物語集」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　説話という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　説話という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「今昔物語集」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「今昔物語集」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「今昔物語集」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「今昔物語集」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「今昔物語集」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ｃ  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 5 | 第２章　宮廷社会に生きる――随筆 | 作品内の人物関係や出来事を読み取る | 枕草子（二）  ●里にまかでたるに（第八〇段）  ●上にさぶらふ御猫は（第七段） | 3 | ①登場人物や話の展開を整理し、その出来事で作者が感じたことを読み取る。  ②助動詞の用法を理解する。  ③敬語の用法と対象を理解する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「枕草子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「枕草子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「枕草子」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「枕草子」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「枕草子」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「枕草子」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　随想という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　随想という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「枕草子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「枕草子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「枕草子」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「枕草子」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「枕草子」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 6 | 第３章　長編の魅力――物語（一） | 長編物語の展開と人物の状況や思いを理解する | 源氏物語（二）  ●車争ひ（葵巻）  ●心づくしの秋（須磨巻）  ●母子の別離（薄雲巻）  ●暁の雪（若菜上巻）  ●萩のうは露（御法巻）  ●霧の中のかいま見（橋姫巻）  ●髪の香（総角巻） | 4 | ①語句の正確な理解によって、場面や状況を的確に捉える。  ②登場人物の心理や行動の描き方を深く味わう。  ③助詞の用法を理解する。  ④敬語の用法を理解する。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「源氏物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「源氏物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「源氏物語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「源氏物語」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「源氏物語」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「源氏物語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「源氏物語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　長編物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　長編物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「源氏物語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「源氏物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「源氏物語」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「源氏物語」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「源氏物語」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「源氏物語」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 6 | 第３章　長編の魅力――物語（一） | 長編物語の展開と人物の状況や思いを理解する | ●『源氏物語』の虚構　鈴木日出男 | 1 | ①物語の虚構と人間の真実との関係を、『源氏物語』の内容とも合わせて考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「『源氏物語』の虚構」を通して「源氏物語」に用いられている「語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「『源氏物語』の虚構」を通して「源氏物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「『源氏物語』の虚構」を通して「源氏物語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「『源氏物語』の虚構」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「『源氏物語』の虚構」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「『源氏物語』の虚構」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「『源氏物語』の虚構」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　古典に関する現代評論という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　古典に関する現代評論という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「『源氏物語』の虚構」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「『源氏物語』の虚構」を通して「源氏物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「『源氏物語』の虚構」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「『源氏物語』の虚構」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「『源氏物語』の虚構」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「『源氏物語』の虚構」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第４章　自己を語る――日記 | 自分を語る表現を探求する | 紫式部日記  ●土御門殿の秋  ●和泉式部と清少納言 | 1 | ①作者は周囲の人物をどのように見ていたのか、その人物との関係に留意しつつ、文章から読み取る。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「紫式部日記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「紫式部日記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「紫式部日記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「紫式部日記」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「紫式部日記」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「紫式部日記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「紫式部日記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　日記文学という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　日記文学という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「紫式部日記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「紫式部日記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「紫式部日記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「紫式部日記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「紫式部日記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第４章　自己を語る――日記 | 自分を語る表現を探求する | 和泉式部日記  ●夢よりもはかなき世の中を | 0.5 | ①敬語の使われ方から人物関係を把握し、恋物語の始まりの場面を読み味わう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「和泉式部日記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「和泉式部日記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「和泉式部日記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「和泉式部日記」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「和泉式部日記」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「和泉式部日記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「和泉式部日記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　日記文学という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　日記文学という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「和泉式部日記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「和泉式部日記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「和泉式部日記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「和泉式部日記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「和泉式部日記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第４章　自己を語る――日記 | 自分を語る表現を探求する | 建礼門院右京大夫集  ●なべて世の | 0.5 | ①和歌と散文の関係に注目し、二つが合わさることで得られる効果について考えよう。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「建礼門院右京大夫集」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「建礼門院右京大夫集」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「建礼門院右京大夫集」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「建礼門院右京大夫集」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「建礼門院右京大夫集」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「建礼門院右京大夫集」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「建礼門院右京大夫集」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　日記文学という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　日記文学という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「建礼門院右京大夫集」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「建礼門院右京大夫集」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「建礼門院右京大夫集」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「建礼門院右京大夫集」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「建礼門院右京大夫集」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 7 | 第４章　自己を語る――日記 | 自分を語る表現を探求する | 十六夜日記  ●関の藤川 | 0.5 | ①修辞法に留意して和歌を解釈し、和歌と散文が合わさった文章から、作者が旅するようすを読み取る。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「十六夜日記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「十六夜日記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「十六夜日記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「十六夜日記」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「十六夜日記」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「十六夜日記」の読解を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「十六夜日記」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　日記文学という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　日記文学という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「十六夜日記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「十六夜日記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「十六夜日記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「十六夜日記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「十六夜日記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第５章　文学を論じる――評論（一） | 文章の構成や展開に注意し、作者の考えを理解する | 古今和歌集仮名序  ●やまとうたは  ●六歌仙 | 1 | ①比喩表現に注目してその内容を考えるとともに、和歌はどのようなものとして捉えられているのかを読み取る。  ②六歌仙の歌を調べ、表現上どのような工夫がなされているか、考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「古今和歌集仮名序」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「古今和歌集仮名序」の歌論という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「古今和歌集仮名序」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「古今和歌集仮名序」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「古今和歌集仮名序」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「古今和歌集仮名序」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「古今和歌集仮名序」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「古今和歌集仮名序」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歌論という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歌論という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「古今和歌集仮名序」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「古今和歌集仮名序」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「古今和歌集仮名序」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「古今和歌集仮名序」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「古今和歌集仮名序」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第５章　文学を論じる――評論（一） | 文章の構成や展開に注意し、作者の考えを理解する | 俊頼髄脳  ●連歌 | 0.5 | ①連歌はどうあるべきと考えているか、具体例と照らし合わせながら、作者の考えやその根拠を読み取る。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「俊頼髄脳」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「俊頼髄脳」の歌学書という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「俊頼髄脳」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「俊頼髄脳」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「俊頼髄脳」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「俊頼髄脳」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「俊頼髄脳」の読解を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「俊頼髄脳」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歌学書という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歌学書という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「俊頼髄脳」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「俊頼髄脳」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「俊頼髄脳」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「俊頼髄脳」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「俊頼髄脳」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第５章　文学を論じる――評論（一） | 文章の構成や展開に注意し、作者の考えを理解する | 無名抄  ●おもて歌 | 0.5 | ①エピソードの内容を的確に読み取るとともに、俊成と俊恵の評価方法の違いについても考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「無名抄」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「無名抄」の歌論という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「無名抄」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「無名抄」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「無名抄」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「無名抄」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「無名抄」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「無名抄」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歌論という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歌論という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「無名抄」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「無名抄」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「無名抄」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「無名抄」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「無名抄」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第５章　文学を論じる――評論（一） | 文章の構成や展開に注意し、作者の考えを理解する | 毎月抄  ●心と詞 | 0.5 | ①文章の構成や展開に注意する。  ②比喩表現に着目して、作者の考えを的確に読み取る。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「毎月抄」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「毎月抄」の歌論という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「毎月抄」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「毎月抄」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「毎月抄」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「毎月抄」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「毎月抄」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「毎月抄」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歌論という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歌論という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「毎月抄」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「毎月抄」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「毎月抄」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「毎月抄」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「毎月抄」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 9 | 第５章　文学を論じる――評論（一） | 文章の構成や展開に注意し、作者の考えを理解する | 無名草子  ●紫式部 | 0.5 | ①敬語の使い方を丁寧に読み取って人物関係を整理するとともに、『源氏物語』の成立事情についての情報を読み取る。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「無名草子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「無名草子」の文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「無名草子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「無名草子」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「無名草子」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「無名草子」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「無名草子」の読解を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「無名草子」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　物語評論という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　物語評論という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「無名草子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「無名草子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「無名草子」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「無名草子」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「無名草子」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第６章　歴史を紡ぐ――物語（二） | 物語の解釈を踏まえて、自分なりの考えを深める | 大鏡（二）  ●菅公配流（時平）  ●宣耀殿の女御（師伊）  ●中宮安子の嫉妬（師輔）  ●肝試し（道長上）  ●道長、栄華への第一歩（道長上） | 4 | ①具体的なエピソードを通して登場人物の人となりを読み取る。  ②本文の主語は何か考える。  ③ | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「大鏡」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「大鏡」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「大鏡」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「大鏡」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「大鏡」の読解を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「大鏡」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歴史物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歴史物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「大鏡」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「大鏡」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「大鏡」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「大鏡」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「大鏡」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 10 | 第６章　歴史を紡ぐ――物語（二） | 物語の解釈を踏まえて、自分なりの考えを深める | 増鏡  ●後鳥羽院（第一「おどろのした」）  ●隠岐配流（第二「新島守」） | 1 | ①歴史的な状況も考えながら、和歌を通して後鳥羽院の心情を読み取る。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「増鏡」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「増鏡」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「増鏡」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「増鏡」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「増鏡」の読解を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「増鏡」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歴史物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歴史物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「増鏡」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「増鏡」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「増鏡」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「増鏡」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「増鏡」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第７章　新たな表現を模索する――俳論・俳文 | 構成の把握をとおして、表現への理解を深める | 野ざらし紀行  ●千里に旅立ちて | 1 | ①漢詩文との関係を把握し、俳文の文体についての理解を深める。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「野ざらし紀行」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「野ざらし紀行」という俳諧紀行文の文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「野ざらし紀行」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「野ざらし紀行」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「野ざらし紀行」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「野ざらし紀行」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「野ざらし紀行」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「野ざらし紀行」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「野ざらし紀行」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「野ざらし紀行」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「野ざらし紀行」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「野ざらし紀行」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「野ざらし紀行」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第７章　新たな表現を模索する――俳論・俳文 | 構成の把握をとおして、表現への理解を深める | 去来抄  ●行く春を  ●岩鼻や | 1 | ①「古人」「や「狂者」という語は、どのような意味で、具体的にどのような人をさすか考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「去来抄」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「去来抄」の俳論という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「去来抄」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「去来抄」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「去来抄」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「去来抄」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「去来抄」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「去来抄」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　俳論という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　俳論という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「去来抄」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「去来抄」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「去来抄」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「去来抄」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「去来抄」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第７章　新たな表現を模索する――俳論・俳文 | 構成の把握をとおして、表現への理解を深める | いそのはな  ●北寿老仙をいたむ | 0.5 | ①リフレインに注目して詩の構成をおさえ、詩に描かれている情景を具体的にイメージする。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「いそのはな」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「いそのはな」の俳詩という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「いそのはな」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「いそのはな」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「いそのはな」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「いそのはな」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「いそのはな」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「いそのはな」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　俳詩という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　俳詩という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「いそのはな」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「いそのはな」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「いそのはな」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「いそのはな」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「いそのはな」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 11 | 第７章　新たな表現を模索する――俳論・俳文 | 構成の把握をとおして、表現への理解を深める | 鶉衣  ●奈良団扇 | 0.5 | ①古典を典拠とする表現や、擬人法・枕詞・掛詞などの表現技法がどのような効果を上げているか考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「鶉衣」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「鶉衣」の俳文という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「鶉衣」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「鶉衣」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「鶉衣」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「鶉衣」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「鶉衣」の読解を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「鶉衣」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　俳文という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　俳文という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「鶉衣」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「鶉衣」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「鶉衣」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「鶉衣」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「鶉衣」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第８章　近世の社会と人間――小説 | 主体的に作品を読み、感じ方や考え方を深める | 西鶴諸国ばなし  ●忍び扇の長歌（巻四） | 1 | ①本文には直接書かれていない、登場人物の感情や考えを、その行動やことばを通して正しく読み取る。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「西鶴諸国ばなし」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「西鶴諸国ばなし」の浮世草子という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「西鶴諸国ばなし」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「西鶴諸国ばなし」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「西鶴諸国ばなし」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「西鶴諸国ばなし」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「西鶴諸国ばなし」の読解を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「西鶴諸国ばなし」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　浮世草子という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　浮世草子という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「西鶴諸国ばなし」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「西鶴諸国ばなし」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「西鶴諸国ばなし」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「西鶴諸国ばなし」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「西鶴諸国ばなし」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 12 | 第８章　近世の社会と人間――小説 | 主体的に作品を読み、感じ方や考え方を深める | 雨月物語  ●浅茅が宿（巻の二） | 2 | ①本文中に多く用いられている修辞技法や古典を典拠とする表現を整理し、その効果を考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「雨月物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「雨月物語」の読本という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「雨月物語」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「雨月物語」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「雨月物語」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「雨月物語」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「雨月物語」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「雨月物語」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　読本という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　読本という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「雨月物語」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「雨月物語」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「雨月物語」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「雨月物語」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「雨月物語」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第９章　本質を探る――評論（二） | 論理展開を押さえて読解し、自分の考えを広げる | 三冊子  ●不易流行 | 1 | ①構成・展開を整理して、本文に提示される二つの考え方がどのような関係にあるか考える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「三冊子」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「三冊子」の俳論という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「三冊子」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「三冊子」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「三冊子」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  ウ　「三冊子」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　俳論という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　俳論という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「三冊子」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「三冊子」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「三冊子」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「三冊子」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「三冊子」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第９章　本質を探る――評論（二） | 論理展開を押さえて読解し、自分の考えを広げる | 玉勝間  ●師の説になづまざること | 1 | ①本文に多く用いられている助動詞や呼応の副詞などの意味を確認し、本文の趣旨を正確に捉える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「玉勝間」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「玉勝間」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「玉勝間」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「玉勝間」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「玉勝間」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「玉勝間」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　随筆という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　随筆という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「玉勝間」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「玉勝間」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「玉勝間」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「玉勝間」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「玉勝間」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 1 | 第９章　本質を探る――評論（二） | 論理展開を押さえて読解し、自分の考えを広げる | 源氏物語玉の小櫛  ●もののあはれ論 | 1 | ①「こころ」を表す字の使い分けや、比喩表現に注目して、論旨を正確に捉える。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「源氏物語玉の小櫛」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  ウ　「源氏物語玉の小櫛」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「源氏物語玉の小櫛」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「源氏物語玉の小櫛」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「源氏物語玉の小櫛」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  エ　「源氏物語玉の小櫛」の読解を通して、先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　注釈書という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　注釈書という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「源氏物語玉の小櫛」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「源氏物語玉の小櫛」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「源氏物語玉の小櫛」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「源氏物語玉の小櫛」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「源氏物語玉の小櫛」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 2 | 第10章　文学の生まれる場所――伝承 | わが国の言語文化について知識を深める | 古事記  ●倭建命（中巻） | 1 | ①人々の間で語り継がれてきた伝承に親しむ。  ②伝承に込められた先人たちのものの見方や感じ方をくみ取る。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　「古事記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 「古事記」の歴史書という文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　「古事記」における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 「古事記」に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　「古事記」を読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　「古事記」を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　「古事記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　歴史書という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　歴史書という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　「古事記」の読解を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　「古事記」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　「古事記」について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　「古事記」に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　「古事記」の読解を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　「古事記」を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表・定期考査 |
| 2 | 第10章　文学の生まれる場所――伝承 | わが国の言語文化について知識を深める | 実践　二つの伝承を読み比べて、表現の違いについて考えよう | 1 | ①ヤマトタケルの死にまつわる伝承について、『古事記』と『日本書紀』を比較して、異なる点を見つける。  ②①の点に注意しながら、ヤマトタケルの死の場面から受ける印象について、『古事記』と『日本書紀』とでは、どのように違うのか考える。③『古事記』と『日本書紀』は、それぞれヤマトタケルの死をどのように位置づけようとしているのか、話し合う。 | a  (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項  ア　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができている。  イ 『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、それぞれの文章の種類とその特徴について理解を深めることができている。  ウ　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通してそれぞれの文章における文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができている。  エ 『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通してそれぞれの文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができている。  (2) 我が国の言語文化に関する事項  ア　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、我が国の文化の特質について理解を深めることができている。  イ　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めることができている。  ウ　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができている。  b  Ａ 読むこと  ア　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができている。  イ　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができている。  ウ　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができている。  エ　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができている。  オ　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができている。  カ　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  キ　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができている。  ク　『古事記』と『日本書紀』を比較する活動を通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができている。  c  教材の内容に関心を持っている。〈発問・授業時の反応〉／発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。〈授業時の反応〉／学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。〈学習の見通し〉／生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。〈古典への取り組み〉／言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。〈言語活動への取り組み〉 | 授業態度・ノート・グループ内発表・クラス内発表 |